

これまでに1年次の『情報入門 ・ 』を基礎として2年次では『プログラミングI』（Cによるプログラミング）と『数式処理実習』（Maximaによる数式処理）が開講されました。本実習では統計計算とグラフィクスのための言語環境として知られるRを使い、確率的なシミュレーションについて実習します。

指定しません。必要な資料を適宜配布します。

- - - 授業計画 - - -	
1 導入	
2 Rの基本操作	
3 ベクトル (1)	
4 ベクトル (2)	
5 行列	
6 リスト	
7 データフレーム (1)	
8 データフレーム (2)	
9 グラフィクス	
1 0 シミュレーション (1)	
1 1 シミュレーション (2)	
1 2 シミュレーション (3)	
1 3 統計処理 (1)	
1 4 統計処理 (2)	
1 5 統計処理 (3)	

実習はペアプログラミング方式で行います。2人1組になって1台のコンピュータを使って共同でプログラミング作業を行います。シミュレーションのアイディアを出し合ったり、プログラミングの技術などを共有したりしながら、相補的に実習を進めてください。

- - - 到達目標 - - -

確率現象を数理的な立場から理解するためにはシミュレーションが有効な道具であることを理解し、その手法を習得すること。

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

テキストを指定していないので復習が中心になります。シミュレーションでは失敗を重ねるうちによりよいアイディアが生まれてきます。そのように試行錯誤を繰り返しながら確率現象の理解を深めてほしいと思います。

- - - 成績評価基準および方法 - - -

実習課題の達成度によって評価します。